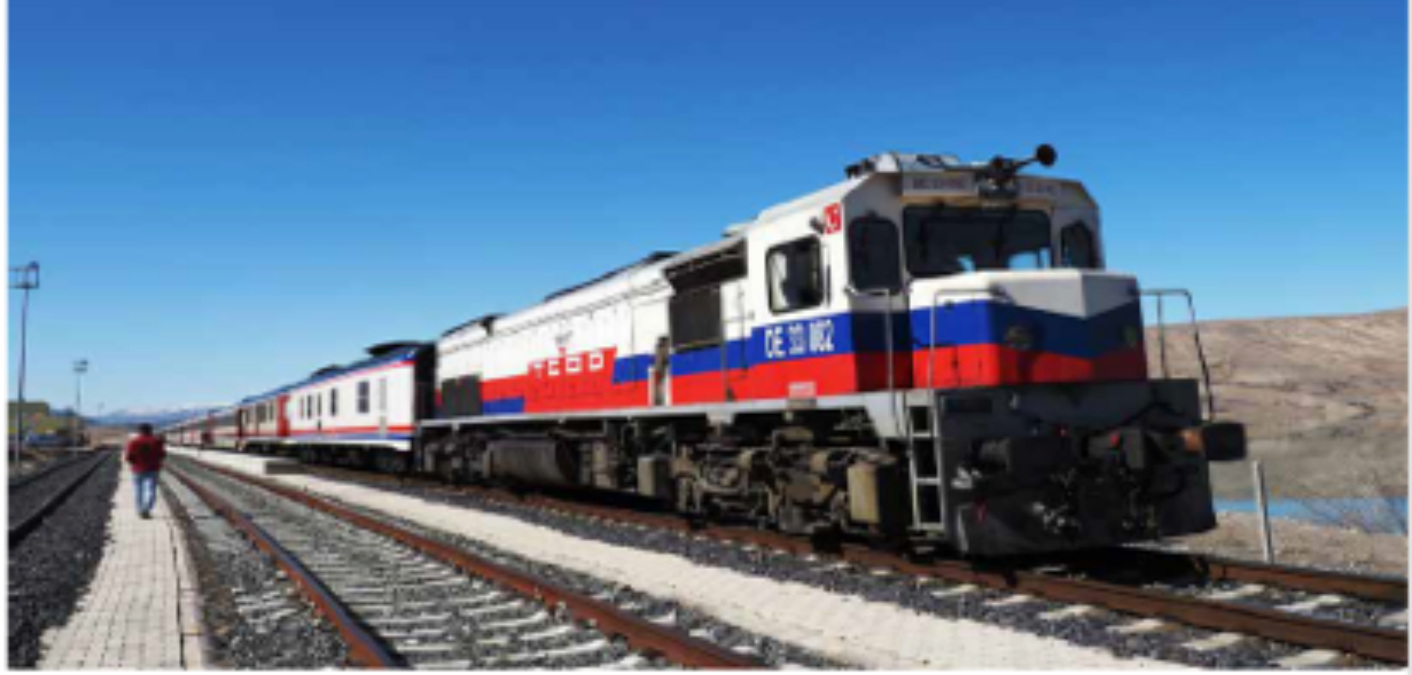


上／8時35分、イリチ駅に到着した「トゥーリスティック・ドーウ・エキスプレシ」。ケマリエ・キャニオン観光のため同駅にて約3時間停車。下右／トルコ西部のイズミルから来た鉄道好きの女性グループ。下左／アンカラ駅で列車のサボ（行き先札）を外し記念写真を撮る乗客たち

列車での楽しい旅をのぞいてみませんか

はれ予報 Channel

右／食堂のお客さん。窓ガラスには点滅するネオンサイン。テーブルには花を飾り、ナッツやフルーツ、チョコレートなどとともにチャイ（お茶）を楽しまれていた。トルコ流の長距離列車の楽しい過ごし方である。左／快適な2段ベッドの寝台個室

左／メルハバ！（こんにちは）と、ウエイターのアーデムさん。右／食堂車のランチ。肉料理は左からチキン、羊のシシケバブ、牛ハンバーグ

15時10分、アンカラ駅1番ホームに「トゥーリスティック・ドーウ・エキスプレシ」が入線した。出発まで30分もあるので、列車の先頭から最後尾まで眺める。まず先頭はディーゼル機関車だ。運転士に声をかけると、「エンジンはアメリカのGE製で3300馬力だよ」と教えてくれた。機関車の次に荷物車が2両連なり、続いて寝台車が3両、食堂車を挟んで再び寝台車が5両、そして最後尾に電源車という14両編成だ。1両が約25mなので全長350mという長い編成である。

発車前のホームで面白いと思ったのは、車両からドーウ・エキスプレシのサボ（行き先札）を外して記念写真を撮る乗客たち。日本でこれをやると怒られる。

アンカラ駅出発後、食堂車「イェメキリワゴン」にてディナーとデザートを満喫し、食後ベッドルームへ。夜の帳の舞い降りた車窓を眺めていると、時折点滅する光が見える。何だろう？　首をひねっていると駅に停車し、駅舎の窓ガラスに映るネオンサインに驚いた。何とその光は駅舎の窓ガラスを彩るイルミネーションだった。「ドーウ・エキスプレシ」の車窓は駅内を光で装飾するのがSNSなどで大人気なのだそうだ。

翌朝はディヴリーイにて夜が明け、8時頃、イリチ駅に停車する。およそ3時間の観光停車である。バスに揺られケマリエ・キャニオンへ。と、その時、絶好の景観を走る列車が見えた。車体の色は[illegible]の機関車の色と違う。ということは、2時間後にアンカラ駅を発車したドーウ・エキスプレシで間違いない。イリチ駅で抜かれることが判明した。

次の目的地エルジンジャン駅には13時30分到着。ここでも約3時間の観光停車が行われ、滝を眺めたり念願のバザールにてウインドーショッピングを楽しんだ。

最後の長時間停車は、20時着のエルズルム駅だった。エルズルムは東部アナトリア地方最大の都市で歴史的建造物も多い。だが時間が時間なのでもう真っ暗だ。ナイトツアーでもあるのかと思いきや案内されたのはジャーケバブのレストラン。ジャーケバブとはエルズルムならではの料理で、トルコでは[illegible]してでも食べるべき料理なのだそうだ。

お腹で大いにジャーケバブを堪能したが、終着駅のカルスには1時間15分も遅れ、深夜2時10分に到着となった。

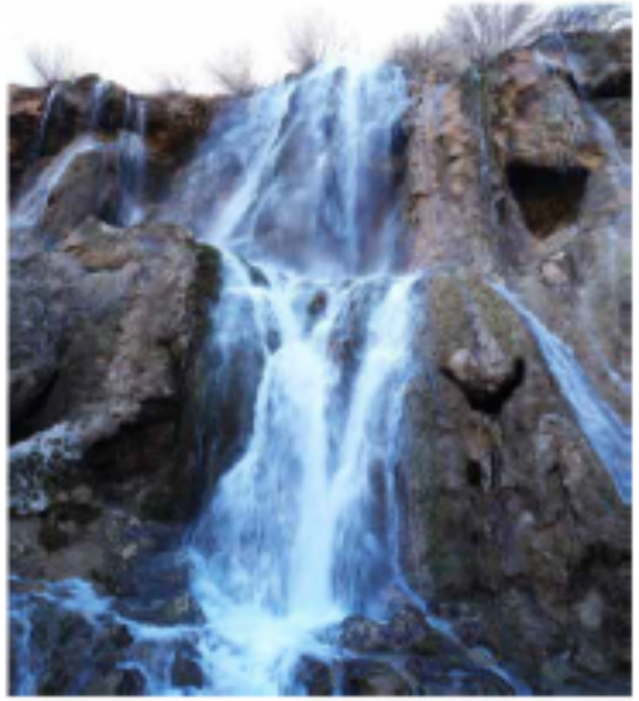
Ilıç
Erzincan

Ilic 〔イリチ〕

イリチ駅からはトルコのグランドキャニオンと呼ばれるケマリエ・キャニオンへ。さらにケマリエ村でヘーゼルナッツをテイスティング

Erzurum 〔エルズルム〕

エルズルム駅では2時間30分停車し、市内のレストランで名物のジャーケバブを堪能する。「ストップ！」と言わない限りケバブは次々出てくる



Elzincan 〔エルジンジャン〕

エルジンジャン駅でも約3時間の観光停車が行われ、エルジンジャンの滝へ。続いて旧市街のバザールにてウインドーショッピングを楽しむ